

城山公民館の活動状況

城山公民館主事 森 祐樹

令和元（2019）年12月に中国で発見されたとされている新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、多くの方が行動を制限されました。今の状況はコロナ禍（ころなか）と呼ばれています。当館を含む高崎市内公民館については、緊急事態宣言の発令を受けて、令和2年4月18日から5月15日までの1か月近く休館することとなりました。その後も感染拡大防止のため、数度にわたり開館時間を制限したり、館内を常時消毒するほか、利用者の密集を防ぐため各部屋の定員を定め利用者数を制限するなどの対策を講じました。令和4年6月時点では、国内外の感染者数が決定的に抑え込まれたわけではありませんが、世界的に行動の制限は緩和されてきています。

そうした状況を踏まえて、近年の城山公民館主催事業を概観してみたいと思います。

この十数年の間のタブレット端末やスマートフォンの普及を受けて、城山公民館主催事業の情報社会への対応教室も、パソコン教室からタブレット教室やスマートフォン教室に移行しています。コロナ禍での行動制限の下で、LINE（ライン）アプリやZoom（ズーム）アプリといったコミュニケーション手段への需要が増大したこともあり、LINEやZoomの講座はどちらも定員を上回るご応募をいただきました。

一方、毎年恒例の講座としてすっかり定着した、群馬大学の藤本宗利先生による源氏物語、枕草子の古典文学講座は先生の親しみやすい語り口で人気を博しています。

音楽の催しも、地域づくり活動協議会、生涯学習推進員との共催により多数開催しています。令和元年11月に城山小学校体育館にて開催された、『からす川音楽集団コンサート』は163人にご参加いただきました。令和3年11月にやはり体育館で開催された『情熱のオペラ！城山に響け！』もコロナ禍にも関わらず164人のご参加をいただきました。

平成29年に群馬交響楽団を招いて開催しました「心に響く音楽会」。この催しは城山町40周年記念事業として令和3年度末に開催しました。ど



令和2年度 作品展

ちらも、定員を大きく超えるご応募をいただき好評をいただきました。

公民館自主事業としての音楽事業も活発です。令和元年には『沖縄三線体験講座』を開催したところ、受講者の皆さんがサークルを結成して、『城山かりゆしの会』として活動が始まりました。また令和4年には『はじめてのウクレレ教室』を開催したところ、定員を上回るご応募をいただき、もっと続けたい受講者の皆さんがサークル活動を開始しました。その他、令和3年度には『二胡の調べ』コンサートや琴、尺八、三味線による『和の響き こだま音楽会』なども開催し好評をいただきました。令和4年度は『ウクレレコンサート』、『ニューヤングオーケストラコンサート』を計画しています。

その他『麺つゆ』『ソーセージ』『中華まん』などをつくる食に関する講座も多数開設しました。

隔年事業として生涯学習推進員と共催して続けて参りました、『作品展』は令和2年度から『発表会』も併せて開催することとなり、令和4年度からは新たに『文化祭作品展』、『文化祭発表会』として開催いたします。

平成24年から生涯学習推進員と共催で毎年開催している『雑学おはなしの会』は令和3年度で第10回となりました。また、生涯学習推進員と体育振興会とで共催している『歴史探訪ウォーキング』もここ数年お休みしていましたが、令和4年度は再開する予定です。

城山公民館は今後も地域のみなさんのご要望にお応えするべく事業を実施して参ります。

公民館事業に積極的にご参加いただきますようお願いします。